

分科会の検討資料は、季刊「保育問題研究242号」（新読書社）に記載されているものを使用しますので、必ず持参して下さい。当日も販売しますが、数に限りがあります。  
事前購入をご希望の場合は、各地の保研または新読書社までお問い合わせ下さい。  
(新読書社 FAX: 03-3814-3097)

### 1 乳児保育

政権が交代し、「子ども手当て」の創設等、国民の生活再建に方向転換した政策が進められようとしています。しかし、今後の具体的な保育政策はまだ打ち出されていません。待機児童解消も遅々として進んでいません。共働き世帯の一般化により、乳幼児の入所希望は多く、定員の弾力化が相次いでいることもあり、乳児保育がますます求められています。  
当分科会は長い歴史があり、その時代の必要性に応じて乳児保育のあり方を考えてきました。受け持ち人数をはじめ、乳児の生活と発達を保障する豊かな保育内容、乳児を取り巻く人間関係など、具体的な実践を通じて議論していきます。

【担当委員】 亀谷 和史(愛知) 中川 伸子(広島) 桃澤智恵子(兵庫) 野村 朋(大阪)  
金田 利子(東京) 高杉 敏江(埼玉) 松田 千都(京都) 吉岡真貴子(岡山)

### 2 集団づくり

いま、人権と民主主義が問われています。子どもたちを民主的な主権者として人間らしく育てていくために、発達年齢にふさわしく豊かな集団生活を保障していきたいと思えます。自治的、民主的集団をめざし、子どもたちの現実や集団の現状をふまえて、実践の道筋と手だてをどう考えたらよいか、地域や家庭をも視野に含めた実践をどうつくりだすのか、また、保育者集団のあり方など、実践をもとに深めていきましょう。

【担当委員】 池田かよ子(東京) 藤 信明(大分) 山田 栄子(大阪) 丹野 広子(仙台)  
木村 和子(愛知) 大元 千穂(佐賀) 光本 弥生(広島) 服部 敬子(京都)  
諸岡 康雄(石川)

### 3 あそび

保育界では、あそびの重要性が再び主張されています。そして、あそびの実践も活況に報告されています。あらためて子どもは、あそびのなかでどのような自分を育てていくのか、仲間とどのように育ちあうのか、そのために保育者はどのようにあそびを組織し、発展させていったらよいかこうした検討がいま私たちに求められています。それはあそびの内容によっても、年齢によっても異なります。栽培や飼育活動を含めた各地の実践をもとに「地域の自分のこどもだったら」と思いを描きながら検討しましょう。

【担当委員】 安部富士男(神奈川) 勸使 千鶴(愛知) 岡村由紀子(静岡) 三浦 和恵(仙台)  
亀谷 純雄(東京) 宮城 千鶴(大阪) 加用 文男(京都) 河崎 道夫(三重)

### 4-a 身体づくり運動

「身体づくり」は単に体を鍛えることではありません。「身体」とは「中身のある体」であり、「身体づくり」とは、人格のありようを含めてのからだの形成をしていくことです。この分科会は、運動を通じて、どのような身体を、どのように育てていくのかを、子どもの最善の利益という視点に立って明らかにしていくことです。今なぜ、その運動なのか、その教材を通してどのような認識や感情、価値観を育てるのかなど、乳幼児期の発達に即して丁寧に考えていきましょう。

【担当委員】 南宮みち子(埼玉) 上月 智晴(京都) 山本 秀人(愛知) 横井 嘉彦(東京)

### 4-b 身体づくり食

「食」は生命を守り維持し、成長を保障する基本です。健康な身体は発達の基礎です。昨年の集会に引き続いて学習期まで見通した「食」を考えましょう。  
また父母や子どもたちの現状を支える新たな視点で実践を語り合ひましょう。各地の給食センター化・委託化についても交流し、健康な子どもを育てるために何が必要な力なのかを共に考え合ひましょう。

【担当委員】 大下二三子(滋賀) 長谷部幸子(北海道) 谷村 律子(京都) 小西 律子(兵庫)  
三上かおる(大阪)

### 5-a 認識と表現文学

これまで提案され、話し合ってきた実践は多岐にわたっています。絵本の読み聞かせ・お話作り・劇あそび・劇づくり・紙芝居などの活動、教材としての絵本の分析、父母・地域とかがわる園文庫のとりくみ、今日の子どもを文化を育てるなど、多様な実践に迫る共通の視点として表現活動をくわって認識を深め、子どもたちの生活をつくること、子どもたちの集団づくりとかがわらせて文学の実践を深めることが認識されています。

【担当委員】 田代 康子(東京) 徳永 満理(兵庫) 中島 常安(北海道) 西川由紀子(京都)  
山崎由紀子(大阪)

### 5-b 認識と表現美術

子どもの絵のとらえ方や見方、指導のあり方について古くから保研の中でも多様な考え方や実践があります。毎年の分科会では、こうした積み重ねを丁寧に認識しあうと同時に、様々な実践の違う点も、結論を急がずじっくり実践の事実を丁寧に話し合う中で相互理解を深めていけたらと思います。そこから見えてくるものを大切に話し合ひていきたいと思います。

【担当委員】 板井 理(大阪) 伊藤 正雄(東京) 田中 義和(愛知) 船 志津子(京都)  
金山 和彦(岡山) 平沼 博将(広島)

### 5-c 認識と表現音楽

「音楽」は、子どもの育ち、人間形成にどんな役割を果たすのか、「音楽」が人間らしく、子どもたちの自由で伸びやかに楽しく、生きる力になるためには、乳幼児期の音楽教育はどうあったらよいのだろうか。音楽教育では認識とは何であるのか。子どもの発達を保障する・促す教材を、発達段階にそってどう選択していけばよいかなどを考えていきたいと思います。

【担当委員】 山並 道枝(熊本) 藤波 陽子(栃木) 高橋 陽子(埼玉) 丸山 亜季(群馬)  
坂手 佳子(大阪) 安藤 正彦(京都)

### 5-d 認識と表現科学

認識と表現「科学」分科会の研究・実践をまとめた保研シリーズの新刊が出版されます。今日の世界の抱える地球環境問題は、未来に生きる子どもたちの生き方とも密接な関係を持っています。自然、とりわけ命ある動植物との直接体験を保育のなかでどのように保障するかが保育現場の課題です。そして、幼児期の知的好奇心や言葉と文学、数理解能力の課題にも討論の幅を広げ、小学校との連携のあり方も考えましょう。

【担当委員】 清原みさ子(愛知) 鈴木 牧夫(東京) 藤井 修(京都) 富田 昌平(岡山)

### 6 保育計画

保育情勢が目まぐるしく変化していきながら、現場では様々な問題が新たに現れてきています。非正規職員の増加、保育者の世代交代、認定こども園の動向、少子化といわれるなかでの待機児童解消のための定員増や認定保育所(東京の場合)の増加。また、子どもだけではなく病んでる親も増えています。その中で保育者は従来の保育計画を根幹にしながらも、速い、努力し、子にも親にも保育者にも最良な保育計画を実践の中から模索しています。

保育所保育指針が改定され、保育課程に基づき、指導計画を作成し、実践し、保育記録を残して自己評価・園での評価をすることが重視されています。このような中で保育計画や保育実践をどのように捉え表していくべきかを、皆さんと実践を交流しながら話し合いを深めてまいりましょう。

【担当委員】 渡邊 保博(静岡) 小林 和子(東京) 林 若子(埼玉) 山本 理絵(愛知)  
合田 史宣(愛媛) 早瀬真喜子(大阪) 荒堀 育子(京都)

### 7 保育時間と保育内容

子育てを始めた父母の労働や生活の大変さと多様さのなかで、保育時間は長くなり、日曜日や祝日も保育を実施する園が増えてきています。本分科会では、父母のそうした労働実態、生活実態と、そこで一緒に暮らし、育つ子どものことを考え合い、努力したこと、工夫したこと、悩んだことなどを出し合っただけで済ませず、それは、保育園とは何か、という話し合いでもありました。

そのような状況を見つめながら、どのような日課や保育内容を作っていくらよいか、子どもとももちろん、父母ともどのように合わせていくらよいか、保育者の労働条件をどうしていくらよいかなど、たくさんある課題をみんなで考えたいと思います。

【担当委員】 河本ふじ江(愛知) 清水 玲子(東京) 清水 民子(京都) 横井 洋子(北海道)

### 8 保育政策と保育運動

たくさんの家庭が保育所に入れなくて困っています。待機児童が多かったら、認可保育所を自治体はつくるべしと法律に書いてあるのに、「財政赤字だから作れない、民営化するしかない」とどの自治体も考えてしまうのは変です。だったら、国が必要な保育予算をきちんと出すべきでしょう。保育者が疲れて、保育にやりがいを感じられなくなっているのは、子どものせいではないはず。どの子ども、どんな子ども大切にされる、そういう保育をするのが難しくなっているとすれば、それは担任の保育者の責任だと言ってすまされません。それなのに、最低基準をもっと補正せよとか、認可保育所制度は無くしてしまえとか、そういう検討を政府が進めようとしているのは許せません。こうした大事な問題を解決する方向をみんなで考え、何ができるかを語り合ひましょう。

【担当委員】 大宮 勇雄(東京) 下條 忠幸(岐阜) 中村 強士(愛知) 近藤 進(京都)  
杉山 隆一(大阪)

### 9 障害児保育

障害児保育の出発を高らかに謳った「保育元年」から30年が経ち、今やわが国では障害児の保育・療育が当たり前のこととなりました。

21世紀を迎え、これまでの実践と理論の蓄積の上、LD(学習障害)、ADHD(注意欠陥・多動性障害)、高機能広汎性発達障害をはじめ「ちょっと気になる子」など新たな子どもたちの保育に立ち向かおうとしています。

どの子どもも分け隔てなく、一人ひとりを大切に発達を保障するインクルージョン保育を実践していきましょう。

【担当委員】 落合 雅(愛媛) 上地 玲子(岡山) 田中 洋(大分) 田中 良三(愛知)  
野本 千明(滋賀) 浜谷 直人(東京) 河合 隆平(石川)

### 10 父母と共に作る保育内容

人間らしく生きる力を育む保育は、昨今の状況から見ても「父母と共に」を抜きに語れません。毎週、父母・保育者それぞれの立場から、お互いに手をたづさえての思いから出発した様々な実践が報告されています。

父母と保育者との信頼関係をつくる・父母たちの保育参加を広げる・地域に根ざした共同の子育てを進める・父母と保育者が協力して新しい保育を創造するなどが討議されます。

【担当委員】 穴戸 健夫(愛知) 長瀬 弥生(大阪) 成富 清美(福岡) 船見 玲美(京都)

### 11 乳幼児期の平和教育

国連は2001年から2010年を「世界の子どものための平和の文化と非暴力のための国際の10年」としました。しかし今なお多くの子どもたちが戦争の犠牲となり、さらに貧困・飢餓・病気などのために幼い命を奪われています。日本では子どもに対する犯罪や虐待が増え続けています。

平和と共生の世界秩序を創造することが、21世紀の人類の課題であり、平和の文化を創る子どもたちを育てることが、平和教育の大切な課題となっています。平和を愛する心は日常生活の中で育てられるので、日々の保育を平和教育の視点でとらえ直し、次の6つの柱にそって実践を深めていきましょう。

1. 平和の心を育てる 2. 戦争体験から学ぶ 3. 平和の大切さを学ぶ 4. 地球環境をよみがえらせる 5. 国際理解・連携を深める 6. 平和の文化を創る力を育てる

【担当委員】 石川 秀子(広島) 小川富士枝(静岡) 黒川 久美(徳島)  
ウィンフィールドひろみ(沖縄)

### 12 地域に開かれた保育活動

保育園・幼稚園の保育が親に信頼され、子どもたちがしっかりと育っていることを土台に、地域の子ともたちもしっかりと育ってほしいと願い、地域開放、体験保育など色々な子育て支援の取組が広がっています。しかし、気になる親子への対応が大きな課題になっています。

親子の背景にある生活の豊かさや、親の未熟さなど保育園だけで抱えきれない問題も増えています。行政や専門機関との連携、民生児童委員など地域の住民組織との連携を日頃から視野に入れた取組が必要です。事例をもとに交流を深め、子育て支援をする今日的意義を共に考えましょう。

【担当委員】 加藤 哲雄(愛知) 野々上明宏(大阪) 水野 恵子(東京) 望月 彰(兵庫)

## 特別講座 6/12 (土) 17:00~18:30

**A 「蝶と自然と地球温暖化」** 講演  
矢田 脩 (九州大学)

**B ワークショップ 「遊び心を鍛えよう」** 実技  
川島 美穂 (福岡子ども劇場)

**C 「長崎の日の語り部として」** 講演  
吉崎 幸恵 (福岡原爆被害者の会)  
「ピリョクだけど ムリョクじゃない」 福田 綾子 (高校生平和大使)

**D 「まんが日本むかし話における絵柄の作り方」** 講演  
～アニメーション美術のスタイルと技法～  
小出 英男 (大阪芸大非常勤講師)

**E 「食育の向こう側に見えるもの」** 講演  
～だから食育なんだ～  
佐藤 弘 (西日本新聞社 編集委員)

**F 「協同・共同によるゆりかごから墓場まで」** 講演  
～社会福祉法人妻の芽福祉会(障害者福祉施設)の挑戦～  
清原 浩 (鹿児島メンタルサポート研究所所長)

**G 「保育に生かす実践記録」** 講演  
～集団づくりの実践から～  
古庄 範子 (熊本保研)

**H 「自立に向けてひとりひとりを大切に作る保育」** ビデオと実技  
～わらべうたを通して子どもに向き合う～  
山下 和子 (ゆなの木保育園園長)

**I 「希望としての保育をどう実現するか」** シンポジウム  
～制度改革の動向と私たちの実践～  
コーディネーター 大宮 勇雄  
シンポジウム 公立・民間保育園の現場から1名 保育政策検討委員会企画シンポジウム

**J 季刊保育問題研究編集委員会企画 「笑いあって育つ」** 対談  
桜井 ひろこ (仙台保研) 加用 文男 (京都保研) 進行: 三浦 和恵 (仙台保研)

**K 常任委員会企画 「これからの幼稚園を考える」** 講演  
～子どもの権利条約を地域の暮らしに根づかせる観点として～ 安部 富士男 (神奈川保研)